第4回高校生国際シンポジウム実施要項

1 主 催 一般社団法人 Glocal Academy

2 協 賛 株式会社 新興出版社啓林館, JS コーポレーション, 株式会社 JTB, 立命館アジア太平洋大学, (一財) 活育教育財団, 麻生泰

3 後 援 鹿児島県教育委員会, 鹿児島市教育委員会

4 テーマ 「人類の英知の上に立ち、未来を創る」

5 目 的 日頃の研究成果をスライド発表やポスター発表としてまとめ、生徒が自らの研究 成果を発表するとともに、参加者間の交流を深めながら今後の進路選択や社会へ の理解を深めていく.

6 期日・会場 平成 31 年 2 月 8 日 (金), 2 月 9 日 (土) サンエールかごしま 〒890-0054 鹿児島県鹿児島市荒田 1 丁目 4 - 1

7 日 程

【1日目】 2月8日(金)		【2月目】 2月9日(土)	
受付	10:00~10:30	受付	10:00~10:30
開会行事	10:40~11:10	パネルディスカッション	10:30~11:30
基調講演	11:15~11:45	パネリスト,審査員との交流会	$11:45\sim 13:15$
昼食	$11:45\sim 12:45$	ゲスト講演	13:30~14:00
研究発表コンテスト(※1)	13:00~17:30	表彰式・講評(※3)	$14:05\sim15:55$
・スライド発表の部		閉会行事	16:00~16:20
・ポスター発表の部			
第1部	$(13:00\sim14:15)$		
第2部	$(14:30\sim15:45)$		
第3部	$(16:00\sim17:15)$		
交流会・研修会(※2)	18:00~		

※1 詳細は別紙1を御参照ください.

※2 1日目の交流会と同時に、課題研究に関する教員研修会を実施します. 内容は教材を用いた指導のあり方および事例発表等です. 詳細は Web を御覧ください.

※3 ポスター発表、スライド発表における各部門の最優秀賞にはシンガポールで行われる Global Link Singapore への推薦参加資格が与えられます。また、スライド発表部門の各分野の最優秀賞発表は表彰後に発表をして頂きます。講評は各分野の審査責任者が行います。スライド発表(最大4分野)の最優秀発表団体(個人)の中から、各分野の審査員および審査統括責任者による協議を行い、グランプリを決定し Global Link Singapore への参加に必要な経費を支給する(別紙4参照)。



アジア地域を中心とする世界各国の中高生が、科学や国際課題に関する考え や研究成果を、英語を使って国際舞台で発表します.

公式 HP: https://www.jtbbwt.com/gsl/index.html

8 講 演

基調講演 東京大学 物理工学専攻・物理工学科 教授 齊藤 英治 氏 演題『探究の面白さとその意味(仮題)』

1971 年東京都生まれ. 東京大学大学院工学系研究科物理工学専攻教授. 東北大学材料科学高等研究所客員教授, 金属材料研究所委嘱教授. 東京大学大学院工学系研究科にて博士号取得. 慶應義塾大学理工学部物理学科助手などを経て, 2009 年東北大学金属材料研究所教授. 2014 年より科学技術振興機構「戦略的創造研究推進事業総括実施型研究(ERATO)」研究総括を兼任. 2018 年より現職. 日本学士院学術奨励賞, 日本学術振興会賞, 日本IBM 科学賞(物理分野)受賞. 2017 年, Highly Cited Researchers に選出される. 専門は物性物理学.

ゲスト講演 東京大学名誉教授 (公財)船井情報科学振興財団副理事長 益田 隆司 氏 演題『これからを生きる君たちへのメッセージ (仮題)』

東京大学名誉教授. 工学博士. 日立製作所中央研究所に勤務後, 東京大学理学部情報科学科教授, 理学部長, 理学系研究科長, 電気通信大学長を経て現在, 公益財団法人船井情報科学振興財団業務執行理事. 海外の大学院で Ph.D.取得のための留学を目指す日本人留学生に奨学金支援の活動をしている. 毎年海外での交流会を開催する等, 支援学生相互の交流も 積極的に図っている.

9 パネルディスカッション テーマ「高校生にいま必要なこと」

パネリスト アリソン ビール オックスフォード大学日本事務所所長

(五十音順) 日下部 元雄 (株) オープン・シティー研究所所長,元世界銀行副総裁

宇津木 光代 シュプリンガー・ネイチャー

隅田 学 愛媛大学教育学部教授, 学長特別補佐,

国際連携推進機構副機構長

島津 公保 島津興業取締役相談役

司 会 者 岡本 尚也 一般社団法人 Glocal Academy 代表理事

10 参加者 全国の高等学校、中等教育学校に在籍する生徒および教員、その他、本シンポジウムに関心のある教育関係者

- 11 研究発表コンテストについて
 - (1) 応募資格 課題研究を継続して実施する国内外の高校生(各学校で申し込み数は10まで).
 - (2) 発表形式 発表は「スライド発表の部」「ポスター発表の部」の2部門で行う. 発表は 1~3 名で行う. なお,同一研究内容を両部門で発表することはできない. また,英語での発表はその英語力に応じて審査の際に最大5%程度の加点を行う.
 - (3) 発表数等 スライド発表の部、ポスター発表の部ともに $1\sim4$ 分野に分けて実施する(分野数は応募数等による). 各分野の発表数はスライド発表の部が最大 $8\sim9$, ポスター発表の部が最大 12 とする. スライド発表 36, ポスター発表 48 の最大数を超えた申し込みがあった場合には、提出された研究要綱(別紙 2) をもとに書類審査を行う.
 - ① 別紙1の「4 発表分野について」掲載の分野のうち、自分の研究に関連する分野を $2\sim3$ つ程度選ぶ.
 - ② 関連分野の応募数等により発表の分野を設定. 発表分野およびその発表者・発表順序をシンポジウムの Web サイトおよびメールでの通知にて $\frac{\text{平成 }31 \text{ 年 }1 \text{ 月 }15}$ 日 (火) に発表する.
 - (4)審査基準 審査基準の詳細は別紙1を参照のこと、今年度からスライド発表の部、ポスター発表の部のそれぞれにおいて二つのルーブリック評価を行う、一つは、提案型(政府や自治体に向けた政策提言、民間団体向けの解決策の提案等)の研究に対するもので、もう一つは基礎研究型のもので社会や学術において新たな見地(未知の現象や課題の発見、新たな理解・解釈)を与える研究に対するものとする、提出の際にどちらのルーブリックにおいて評価を受けたいかを選択する事。
 - (5) 発表時間 スライド発表の部 発表時間 12 分, 質疑応答 7 分, 審査記録 3 分 <u>計 22 分</u> ポスター発表の部 発表時間 7 分, 質疑応答 3 分 <u>計 10 分</u>

※各部とも発表は日本語・英語のどちらでも構わないが、質疑応答で使用する言語 は質問者(発表者ではない)の使用言語とする.

※ポスター発表の部は設定時間内に複数回の発表を行う.

※時間を超過しないようにすること.

- (6) 表 彰 各分野ともそれぞれの優れた発表を最優秀賞,優秀賞,優良賞として表彰する.
- (7) 申込方法 【生徒申込】 <u>別紙1の応募上の注意を熟読し、平成30年12月1日(金)から平成31年1月7日(月)18:00までに</u>別紙2の研究要綱をPDF形式で大会申し込みWebサイトより提出する. その後、<u>平成31年1月9日(水)に書類審査を通過した参加資格者を発表するので、平成31年1月12日(土)までに</u>別紙3の内容をWebサイトでデータ入力するとともに、別紙3自体を押印のうえ、郵送し(<u>平成31年1月15日(火)</u>消印有効)本申込を行う.

発表分野及び発表順序は<u>平成31年1月15日(火)</u>に Web サイト およびメールにて発表する.

- (6) 申込方法 【教員申込】 引率教員の参加申込は<u>上記生徒の本申込と同時に平成 31 年 1 月 12</u> 日(土)までに別紙 3 の内容データ Web サイトにて送付を行い,別紙 3 自体を押印のうえ,郵送し(平成 31 年 1 月 15 日 (火))本申込を 行う.
- (6) 申込方法 【見学申込】 発表を行う生徒および引率教員以外の参加申込は、Web サイトに示された方法によって平成 30 年 12 月 1 日 (土) から平成 31 年 2 月 4 日 (月) までに行う.

(8) その他

- ① スライド発表の部では、PC やタブレット等を各自持参すること、RGB ケーブルは用意するが、それ以外を用いる場合はアダプター等を各自用意する。会場の関係で前日等にリハーサルができないため、接続のテストは休憩時間に行う。
- ② ポスター発表の用紙は四六判 (788mm×1091mm) 1 枚とする. 詳しくは別紙1の「3 発表について」を参照.
- ③ 1日目全日程終了後に生徒の交流会,教員研修会,2日目の昼食時間にパネリスト,審査員, 生徒との交流会を開催する.参加費と時間はWebサイトにて連絡する.
- ④ 弁当の申込やホテルの斡旋,交流会等の参加申込については、Web サイトを参考にすること (平成30年12月1日(土)から掲載予定).
- 12 大会 Web サイトについて

本大会に関する情報は、全て大会 Web サイトに掲載する.

また,各様式等や発表の希望者数が多い場合の審査結果の発表も大会 Web サイトに掲載予定. 申し込みの際に引率者のメールアドレスを登録すること(更新情報を送信するため).

大会 Web サイトアドレス (平成 30 年 9 月 22 日 (土) より利用可能)

http://glocal-academy.or.jp/

主な日程一覧				
12/1 (金)	Web サイト公開・申し込み開始			
1/7 (月)	申込締め切り(Web サイトにて)			
1/9 (水)	参加資格者発表			
1/12 (土)	参加本申込締め切り			
1/15 (火)	書類送付締め切り、発表順等発表			

【連絡先】

 $\mp 890\text{-}0051$

鹿児島県鹿児島市高麗町 9-20

担当: 久木田, 岩元, 岡本

TEL 090-5289-0857 FAX 099-256-2444

Email: info@glocal-academy.or.jp

第 4 回 高 校 生 国際シンポジウム

The 4th International Symposium for High School Students





February 8 (Fri), 9 (Sat), 2019 サンエールかごしま Sunyell Kagoshima

体験レポート

第4回 高校生国際シンポジウム

2月8日と2月9日の2日間にわたり,鹿児島県で全国の高校生が課題研究の成果を発表する「第4回 高校生国際シンポジウム」が実施されました。シンポジウムの様子,発表内容や講評などをご紹介します。



今回の第4回高校生国際シンポジウムの参加校数は 合計47校。過去大会とくらべ、さらに日本全国の高校生 でにぎわった会となった。研究分野も文系理系とも、より パラエティに富み、2日間の開催で、延べ人数1、300名 以上もの教員・生徒が参加した。

全校133組の参加希望から書類審査を通過した37組の75名がスライド発表を、44組の89名がポスター発表を行った。スライド、ポスターともに各4分野でそれぞれ9~13組が発表し、上位となった発表には最優秀賞、優秀賞、優良賞が贈られ、昨年に引き続き、各部門の最優秀発表にはシンガポールで行われるGlobal Link Singaporeへの推薦参加資格が与えられた。

ポスター発表の部		
「国際課題·観光分野」		
「国内課題分野」		
「地域課題分野」		
「自然科学分野」		

今回のシンポジウムでは、後述の基調講演やパネルディスカッションのほか、大学教員や企業などの有識者を中心に、オープン・シティー研究所所長、元世界銀行副総裁の日下部元雄氏、(株)島津興業取締役相談役の島津公保氏、愛媛大学教授の隅田学氏など、26名の審査員が、発表形式やテーマに分かれて審査を行った。研究の背景や目的、研究手法と、得られた結果の考察、結論といった研究内容の評価に加え、スライドやポスターの体裁、プレゼンテーションの技術、さらに研究に取り組む姿勢などが評価基準となり、部門ごとの審査員で審議をしながら、各賞の決定がされた。

大学入試改革や「総合的な探究の時間」の先行実施を受け、こうした大会への参加はますます重要度を増し、参加する高校数も全国的に拡大を見せている。校内での複数回にわたる中間発表の実施はもちろん、このような大会で、校外の有識者からの評価を得ることや他校の生徒との交流、協働は今後不可欠な要素になっていくだろう。

スライド発表

スライド発表の部は、「地域課題分野」、「国際問題・環境・観光分野」「生物分野」「工学・基礎科学分野」の4分野に分かれて行われた。各分野から1人ずつ、最優秀賞・優秀賞・優良賞が贈られ、各部門の最優秀賞受賞者の中から1名がグランプリとして表彰された。

9組が発表。総合大学設置や風力発電による地域活性 化に取り組む生徒,高齢者誘致や原発再稼働による地域 経済への影響を検証した生徒,また地域に対する愛着と 誇り,学習支援環境整備,児童虐待,持続可能な林業,黒 牛の広報戦略などのテーマが発表された。

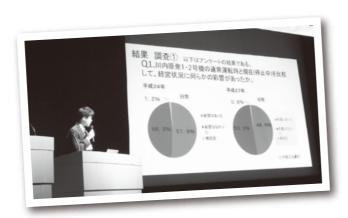
9組が発表。テーマは、インドの水質改善や瀬戸内海のごみ問題などの環境問題、高校生英語観光案内ボランティアや名古屋城木造復元を提案する観光に関するもの、また、生命倫理と人間原理の融合、学校におけるLGBT支援グループ、日本とサウジアラビアの刑法の背景、スポーツを通じた国際平和などのテーマが発表された。

10組が発表。グリーンタイドの原因、港の外来アリの地域間比較、ミドリムシの植物の成長に与える影響、カスミサンショウウオの性フェロモンと受容体、簡易組織培養法によるナガサキギボウシの救出、環境にやさしい洗剤の開発、生態系を考慮した河道掘削案と評価方法、アユと冷水病菌の騎亜悦的相互関係、ヤクシマエゾエビの生息背景、イヌリンの便通改善などのテーマが発表された。

「工学·基礎科学分野」······

9組が発表。浮遊粒子物資測定器や大量ヤスデの建物侵入を防ぐテープ、もみ殻を活用したバイオエタノールや車のフロントガラスの解氷スプレー、独居老人の生死問題を改善する装置などの開発を主としたテーマや、ネオジム磁石球を用いた地磁気の測定やため池における新しい低類管理方法などを提案したテーマ、また、ロボティック医療、蒲生川河川敷の地殻変動について発表された。

このシンポジウムに向けて年単位で取り組んできた 課題研究の成果を、審査員を含め多くの人々と共有しよ うと、意欲的な発表が多く見受けられた。また、研究を進 める中で生じた新たな課題にも主体的に取り組んできた ことが発表の様子からも垣間見ることができた。主に社 会課題に関する発表では、文献調査やアンケートなどの フィールドワークを駆使して現状把握をしっかりと行った ものが、自然科学分野の発表では、大学と協力して実験 などを行っているものが多かった。







ポスター発表

ポスター発表の部は、「国際課題・観光分野」「国内課題分野」「地域課題分野」「自然科学分野」の4分野の発表が行われた。ポスター発表の部からも、各分野から1人ずつ、最優秀賞・優秀賞・優良賞が贈られた。

11組が発表。東京オリンピックを見通したトイレ設備や遺伝子編集行為への対策、プラスティックに関連する環境問題、イエナプラン教育や言語習得に着目した教育問題、外国人コミュニティに関連する国際問題、インターネットが及ぼす観光地への影響、災害による観光客減少、消費税率と幸福度の相関などについてのテーマが発表された。

10組が発表。知的障がい者、外国人労働者、女性に焦点を当てたテーマや、折り紙や乾パンに着目した災害についてのテーマ、紙やウナギの大量消費についてのテーマ、幼少期の口腔教育、社会保障、超・フードバンク構想などについてのテーマが発表された。

10組が発表。鯉や鹿肉を取り上げた食料テーマや、地域コミュニティの強化や地域活性化の策を提案したローカルなテーマ、避難所HUGや原子力発電所についてのテーマが発表された。

13組が発表。スリップ事故や海水汚染問題の改善策を提案した発表や、生物の生態や生息地を調査した発表、人工心臓の製作、トレハロースやグリーンフラッシュの性質について、風船の膨張やガウス加速器の加速メカニズムの解析、ジャイロミル型風車、炎色分光光度計を取り上げたテーマが発表された。

ポスター発表はスライド発表よりも発表時間が短いこともあり、発表後の質問タイムは審査員だけでなく一般参加者からの質問も会場いっぱいに飛び交った。質問を通して、発表者が研究内容をより深めたり、違う視点から研究を捉え直し、新しい気づきを得たりする姿が見受けられた。ポスターは図や表、写真などを活用し見やすくする工夫が凝らされており、相手にわかりやすく伝えようとする努力が目に見えた発表であった。









基調講演

基調講演では、東京大学大学院教授の齊藤英治氏より「こんなにすごい!物理研究の最先端」という演題で、物理学研究の楽しさについて、スカイツリーでの実験など身近な話題をふまえて、楽しく語られた。

現在取り組まれている物理学の研究を、プラトンの『国家』で述べられている洞窟の比喩になぞらえ、我々が普段見ている現象や世界は、本当の姿のごく一部(射影されたもの)を見ているにすぎないと語られた。例えば、アインシュタインが提唱した相対論によって、世界は三次元だと信じていた我々の認識は覆され、四次元の時空間として記述したほうが正しいことが示された。我々が別のものとして認識している電場や磁場等も、この記述の中では本質的には同じものとなる。

常識というものに疑問や問いを立て続け、視点を変えることが、大きな発見につながり、探究心を育んでいくことをご自身のご経験からお話しいただいた。日常では聞けないような最先端の話に好奇心を駆り立てられ、前のめりで聞く生徒の姿が多く見られた。

パネルディスカッション



オックスフォード大学日本事務所代表補佐 東 まゆみ 氏,株式会社島津興業相談役 島津 公保 氏,愛媛大学 教授・愛媛大学附属高等学校副校長 隅田 学 氏,シュプリンガー・ネイチャー社 宇津木 光代 氏,オープン・シティー研究所所長 日下部 元雄 氏の5名をパネリストに迎え,「いかに自分自身の興味関心を引き出し,研究や進路につなげていくか」について意見交換を行った。

興味関心を見つける段階では、大人や教員の役割の 重要性についても語られた。大人は生徒の話に耳を傾け 「対話」をすることで、生徒の興味を引き出すことが可能 となる。生徒が少しでも興味のあるものを見つけた際に、 何か形にしてみるよう指導する。例えば、言葉にするだけ でも、同じ興味を持つ人とつながりができるという。興味 のあるものを見つけたら、自分に何ができるか、または社 会的意義を考え、掘り下げることが、より貢献度の高い研 究や進路実現につながる。

興味関心は人それぞれ違うので周りを気にして合わせる必要はなく、自分を信じるべきというような意見も交わされた。ディスカッション後の質疑応答では、生徒だけではなく教員を含め、質問が多数寄せられた。成功とは何か、興味の広げ方、好奇心の突き詰め方などを問い、自分の今後に生かそうとする参加者たちの積極的な姿勢が見られた。

ゲスト講演



ゲスト講演では、オープン・シティー研究所所長の日下 部元雄氏が「これからを生きる君たちへのメッセージ」と いう題目で、元世界銀行副総裁であるご自身の経験をも とに、 高校生に語りかけた。世界銀行就職から現在ご活 躍されている教育分野の道へ進んだ日下部氏の人生談 からは、教育に対する氏の熱い思いがあふれた。日下部 氏が世界銀行で働き始めた頃、まさに政策の転換を迫ら れており、危機を乗り越えるために注目されたのが創造 的産業創出への取り組みだった。発展途上国などで現地 の人とともに研究に取り組み、それが日下部氏にとって の初めての課題研究であったという。課題の解決には制 度を変えるだけでは不十分であり、経営者から親、親から 子の意識改革から始めなければならない。最後に、日下 部氏は日本を変える原動力になってほしいと高校生に熱 いまなざしで語りかけた。日下部氏の理知的な話に、四 苦八苦して懸命に食らいつこうとメモをとる高校生の姿 がなんとも頼もしかった。

交流会

今年の交流会は2日間にわたって開催され、延べ人数約300人の生徒とその他教員、審査員らが参加した。大会1日目の夜には、高校生と教員の間で交流会が開かれた。全国から集まった各高校の学校紹介から始まり、座席交換も交えて高校生たちは他校の生徒や教員と交流した。最初は緊張していた生徒たちだが、自分の研究や地元の話をする生徒たちの顔からはいつの間にか笑みがこぼれていた。最後は基調講演者である齊藤先生からの話で、大会1日目は幕を閉じた。

2日目は審査員らも交流会に加わり、活発な意見交換が行われた。生徒が進路について相談し、審査員が自身の経験をふまえて真剣に話す姿が見られた。ここで出会った他校の生徒や審査員との熱い語り合いがきっかけとなり、自己の価値観や将来の考え方が変化した生徒も少なくないだろう。そのような機会を生徒に与えられることがこの交流会の醍醐味でもある。

昨年同様、発表を終えて各賞が発表されたあとには、 生徒たちから「頑張れた」という誇らしげな声や、思うようにできず悔しがる声なども聞かれた。熱心に指導してくれた先生へ報いることができなかった悔しさ、本当に伝えたいと思ったことが伝えられなかった悔しさなど、思いはそれぞれ。その中でも、それを糧に、次の機会に思いを馳せたり、自分の学びになったと前向きに捉えたりする生徒たちの声も多く聞かれた。そして、翌年同じように課題研究に挑む後輩たちの糧になりたいという思いも見られた。課題研究は自分一人で取り組むものではなく、先生や、協力してくれる外部の人、学校の先輩など、たくさんの人に支えられたからこそ取り組めたことなのだということを生徒が強く意識していることがうかがえた。











12 13

授賞式

大会2日目の午後、授賞式が行われた。スライド・ポスターの 両形式から、各分野について、以下の発表に賞が授与された。

	分 野	最優秀賞	優秀賞	優良賞
スライド発表	地域課題	山神 洸一 (鹿児島県立甲南)	森 悠里 (鹿児島県立大島)	小戝 嬉乃 (志學館高等部)
	国際問題・環境・観光	宮下 彩寧 (鹿児島県立甲南)	深澤 俊輔 他 (岐阜県立岐阜)	福岡 康之介 (名城大学附属)
	生物	河野 有香 村瀬すぐり (岐阜県立岐阜)	浅井 嘉乃 他 (池田学園池田)	八ヶ代 圭音 他 (鹿児島県立国分)
	工学·基礎科学	平田 健晃 他 (鹿児島県立国分)	馬場 莉大 (鹿児島県立甲南)	平 実奈 他 (鹿児島県立国分)
ポスター発表	国際課題・観光	砂坂 栞吏 (鹿児島修学館)	大前 友紀恵 他 (佼成学園女子)	西中間 大湖 他 (神村学園)
	国内課題	塩満 明以 (鹿児島県立甲南)	荻原 未悠 (宮崎県立高鍋)	川﨑 裕也 他 (宮崎県立宮崎大宮)
	地域課題	榊原 莉音 (名城大学附属)	山口 樂々賀 (明治学園)	今田 義智 他 (宮崎県立宮崎大宮)
	自然科学	横山 光海 (岐阜県立岐阜)	篠原 あみ 他 (鹿児島県立国分)	塩谷 明日香 他 (三田国際学園)

表彰式では、各分野の賞を発表後、スライド発表で最優秀賞を受賞した4組が発表し、その中からグランプリ受賞者が決定された。グランプリを受賞したのは、「生物分野」で「カスミサンショウウオの性フェロモンと受容体について」というテーマに取り組んだ、岐阜県立岐阜高等学校の河野有香さんと村瀬すぐりさん。彼女らは岐阜県を含めた西日本を中心に生息し絶滅危機に瀕しているカスミサンショウウオの生殖行動を、実験を通して分析した。卵巣の表面に性フェロモンが存在するという仮説を立て、行動実験、組織的科学解析、RNA-seq解析の過程を得て実証した。また同種内だけでなく属間で有効な性フェロモンの存在を発見し、新たな見解を世界に向けて示した。

多くの観衆を前に研究発表をする彼女たちのはつらつとした声が講堂内に響き渡り、「課題研究を楽しむ」姿が聞く者の心に強く印象づけられた。問いを立て続ける姿勢と、地域住民や7つもの研究機関・研究者、行政から協力を得ている彼女らの粘り強さや行動力に感嘆の声が上がった。





講評

ポスター発表

全体的に視覚効果が活用されたポスターが多く、目次番号が振り分けられすっきりと整理されており、大学で発表しても通用するような深い内容の発表ばかりであった。また、実際に実験器具を使用して実験を再現したり、研究対象の現場の写真を見せたりと様々な工夫が見られ、見ている人を引き付ける発表だった。その一方で、課題に取り組む意義や現状を十分に把握できずに原因を推測し、現状とマッチしない解決策が出されているものもあった。安易な解決策を出すことよりも、まずは現状をしっかりと把握することが、現実的で現状に沿った解決策を見いだす鍵となる。

スライド発表「分野1」

地域課題分野の講評は株式会社島津興業相談役の島津公保氏。よい点として、地域に密着して課題をしつかりと捉え、その課題に対してユニークな発想で取り組んでいた点が挙げられた。また、インターネットに頼らずアンケートやインタビューなど自分で行動を起こし現地で調査することができており、きちんと過程を経て提案が展開されていた点も評価された。改善点としては、研究の視野が狭い、自己の見解を批判的にとらえず結論としてしまっている、二次資料を使用している、などだ。今回受賞から漏れてしまった生徒も落ち込む必要はなく、糧にしてまた課題研究にチャレンジしてほしいと語られた。

スライド発表「分野2」

国際問題・環境・観光分野の講評は立教大学大学院客員教授の日下部笑美氏。どの発表にもすばらしい点があり、受賞者を決めるのに苦労したという。研究テーマはタイムリーなものが多く、日本または世界規模の大きい課題に対して問題意識をもち、考えようとする姿勢が見られた。また、解決策についても具体的であったり、実現可能性が深く熟考されたものであったりするものが多かった。研究において重要な、文献の示し方に対する指摘があったが、今回の発表者のような姿勢で課題に取り組む人が増えてくることが重要だと生徒たちを称えた。

スライド発表「分野3」

生物分野の講評は関西大学化学生命工学部教授の上 田正人氏。高校生らしさが現れた研究から大学レベルの 研究まで幅広くあり、各発表のよい点が光っていた。 質疑応答でも数式や原理について深く理解しているこ とがわかる受け答えがなされ、発表にたどり着くまでいかに準備してきたかがうかがえる発表ばかりであったという。より高度な研究にするためには、データの分析をつめて定量化することが必要だと指摘した。また、研究内容だけではなくそのテーマが大好きだという気持ちを伝え、聞く人の心を動かすスライド発表をしてほしいと語った。

スライド発表「分野4」

工学・基礎科学分野の講評はYK Global Impact CEOの日下部裕美子氏。イノベーションにつながる難易度の高いこの分野に挑戦したことを称え、新規性・主体性・独自性、の3つを重視して審査を行ったと語られた。発表の中には、どこまで自分たちの頭で考えて行動に移したかのプロセスが明確に示されている研究や、工学・基礎科学分野という分野だけでなく社会問題につながる社会的意義の高い研究もあった。今回研究期間が短くて深堀りできなかった生徒も、周りの人にアドバイスを求め、これからどのように研究を発展させるか考えていってほしいと、これからの生徒の姿に期待を込めて語られた。

第5回

高校生国際シンポジウムの開催について

第5回 高校生国際シンポジウム

主催: 一般社団法人 Glocal Academy

日時: 2020年2月13日(木),14日(金) 場所: 宝山ホール(鹿児島県文化センター)

【参加資格】

全国の高等学校およびそれに準じた学校

【エントリーについて】

各校10発表まで。所定の研究要綱を2020年1月 10日(金)までに大会HPより申し込み。

【詳細】

大会HPアドレス

http://glocal-academy.or.jp/

詳細はコチラ

